

2010年度教員業績一覧

赤嶺 淳

著書・論文

1. 『ナマコを歩く―現場から考える生物多様性と文化多様性』、新泉社、赤嶺淳、392頁、2010年5月
2. 「野生生物資源管理と生物多様性の保全」、松田裕之・赤嶺淳、『環境と公害』40(1)：5-9、2010年7月
3. “Circumventing the sea cucumber war: Self-regulation of sea cucumber fisheries in Rishiri Island, Japan,” AKAMINE, J. in de Jong, Wil., D. Snelder, and N.Ishikawa eds, Transborder governance of forests, rivers and seas, London: Earthscan, pp. 99-114, October 2010.
4. 「マグロ騒動、その真実はどこに・・・―第15回CITESを振り返って」、赤嶺淳、『水産界』2010年6月号(第1505号)：19-23、2010年6月
5. 「あの組織に未来はあるか―第62回国際捕鯨委員会に参加して」、赤嶺淳、『水産界』2010年8月号(第1507号)：13-17、2010年8月
6. 「佐野眞一『遠い「山びこ」―無着成恭と教え子たちの四十年』」、赤嶺淳、小林多寿子編、『ライフストーリー・ガイドブック』、嵯峨野書院、226-229頁、2010年9月
7. 「バナナは問いつづける―書評『生物多様性<喪失>の真実』」、赤嶺淳、『科学』2月号：187-188、2011年1月
8. 「いきもの論壇 食文化と生物多様性」、赤嶺淳、『中日新聞』、2010年9月29日、28頁(社会)
9. 「ナマコに見る生物多様性―人と自然がかかわってこそ」、赤嶺淳、『朝日新聞』、名古屋本社版、2010年10月7日夕刊、7頁(ナゴヤカルチャー)。
10. 「捕鯨と海洋生物多様性―第62回国際捕鯨委員会でのオープニング・ステートメントから」、『GGTニューズレター』87：3-4、2010年11月
11. 「漁業・漁村の現場から50―ナマコ供養でまちおこし」、赤嶺淳、『漁業と漁協』2月号：13-17、2011年2月
12. 「野生生物保護の問題点―「人類共有遺産」の保全をめぐる同時代的視座」、赤嶺淳、『国立民族学博物館調査報告』97：269-295、2011年3月

学会報告

13. 「野生生物資源管理と生物多様性の保全」松田裕之・赤嶺淳、第16回野生生物保護学会・日本哺乳類学会2010年度合同大会、2010年9月19日、岐阜大学講堂。
14. “Sea cucumber markets in the world: Hong Kong, Guanzhou, and New York”, Akamine, J., paper read

at the CIAR-SPC Asia-Pacific tropical sea cucumber aquaculture symposium, February 17, 2011, SPC, Noumea.

天谷 祐子

著書・論文

1. 『私はなぜ私なのかー自我体験の発達心理学』、ナカニシヤ出版、天谷祐子、184ページ、2011年2月
2. 「第9章 青年期 第2節 自己意識・自我の発達」、天谷祐子、日本パーソナリティ心理学会編、『パーソナリティ心理学ハンドブック』、福村出版、分担部分ページ数未定、印刷中
3. 「第4章 青年期の心の発達」、天谷祐子、榎本博明編、『発達心理学』、おうふう、45-58、2010年10月
4. 「自我体験の経験時における深刻さと体験後の意味づけに寄与する要因の検討ー初発時期と体験期間を切り口にしてー」天谷祐子、名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』、14、25-35、2011年2月

学会報告

5. The Contribution of “Ego-Experience” to Self-Consciousness. Yuko Amaya, *The 118th Annual APA Convention* (poster, 査読有), San Diego Convention Center, U.S.A., 2010年8月
6. 「私はなぜ私なのか」という問いとレジリエンス・共感性の関連ー大学生を対象とした質問紙調査よりー、天谷祐子、日本心理学会第74回大会、大阪大学、2010年9月
7. 性格特性の5因子と対人不安・心理的負債感の関連、天谷祐子・谷伊織、日本発達心理学会第22回大会、東京学芸大学、2011年3月

有賀 克明

著書・論文

1. 「生活科・総合学習」有賀克明、行田稔彦、船越勝『日本の民主教育 2009』（大月書店）p. 291-301 2010年8月
2. 「地域に根ざす次世代育成支援としての〈学-学-社連携〉の試み（プロジェクト研究報告）」有賀克明、梶田美香『人間文化研究所年報6』名古屋市立大学人間文化研究所 p. 93-95 2011年3月

安藤 究

学会報告

1. Grandparenthood in Japan, Kiwamu ANDO, paper presented at the XVII International Sociological

飯島 伸彦

著書・論文

1. 「ポピュリズムと熟議・討議デモクラシー—現代日本における政治過程と世論過程の交錯」
加藤哲郎他編『差異のデモクラシー』日本経済評論社2010年7月

伊藤 恭彦

著書・論文

1. 「グローバリゼーション・周縁化・コスモポリタニズム」、伊藤恭彦、『政治思想研究』第10号、4-30頁、2010年5月
2. 『貧困の放置は罪なのか—グローバルな正義とコスモポリタニズム』、人文書院、伊藤恭彦、298頁、2010年5月
3. 『食の人権—安全な食を実現するフードシステムとは』、リベルタス出版、伊藤恭彦（編）、141頁、2010年11月
4. 「税制の政治」、伊藤恭彦、斎藤純一編『政治の発見3巻 支える』、風行社、233-259頁、2011年1月

学会報告

5. 「社会統合のあり方をめぐる規範理論的対話」、コメンテーター、伊藤恭彦、日本政治学会、中京大学、2010年10月9日

上田 敏丈

著書・論文

1. 「第7章 援助計画の種類と書き方」上田敏丈・小川史・川俣美砂子他10名、北野幸子編、『シードブック 乳幼児教育・保育課程論 ～実践に生きるカリキュラムづくりをめざして～』pp. 80-96 2010年4月 建帛社
2. 「ティーチング・スタイルを視点とした保育者の関わりについての研究」、上田敏丈、子ども社会研究 第16号、pp. 3-16、2010年7月
3. 「保育者養成校における入学前・初年次教育の現状に関する調査」上田敏丈・富田昌平、中国学園紀要、第9号、pp. 63-72、2010年6月
4. 『保育士養成資料集 第52号「指定保育士養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査」報告書Ⅱ—調査結果からの展開—』太田敬子・三浦主博・岸井慶子・上田敏丈他11名、全国保育士養成協議会、2010年5月

5. 『保育士養成資料集 第52号「指定保育士養成施設卒業生の卒後の動向及び業務の実態に関する調査」資料：Q 5 自由記述編』太田敬子・三浦主博・岸井慶子・上田敏文他11名、全国保育士養成協議会、2010年5月

奥田 伸子

著書・論文

1. 「コメント 1」、奥田伸子、『歴史学研究』、No. 872、114-116、2010年10月
2. 「ジェンダーの二十世紀」、奥田伸子、木畑洋一・秋田茂編、『近代イギリスの歴史 16世紀から現代まで』、ミネルヴァ書房、309-325、2011年3月

学会報告

3. 近代史部会（資本主義社会を生きるということー労働の現場を通じて）におけるコメント、奥田伸子、歴史学研究会2010年大会、専修大学生田校舎、2010年5月
4. Workers or Home-makers?: British Government's perceptions of migrant/minority women's labour and the 1962 Immigration Act', 奥田伸子、国際ワークショップ Immigration and Re-imagining 'Home': 'Race', Ethnicity and Gender in Post-imperial Britain (イギリス帝国史研究会特別セッション)、東京大学駒場キャンパス、2010年6月

菊地 夏野

著書・論文

1. 『ポストコロニアリズムとジェンダー』青弓社、菊地夏野、350頁、2010年4月
2. 「掘り起こされ、芽生えてゆく自由 フェミニズム理論の第三の波」菊地夏野、仲正昌樹編『叢書アレティア12 自由と自律』御茶の水書房、P135-161、2010年9月
3. 「日本軍「慰安婦」問題に見る日本の戦後思想」菊地夏野、伊藤誠・本山美彦編、『危機からの脱出』P御茶の水書房、375-383、2010年4月
4. 「日本のフェミニズムと植民地主義 これまでとこれから」菊地夏野、『わたちの21世紀』No. 62 pp19-22、2010年6月
5. 「日本軍性奴隷制に立ち向かうフェミニズムの思想を提示 女性国際戦犯法廷から10年、厳しい時代状況の道しるべに」菊地夏野、図書新聞2011年1月1日号、2996号

学会報告

6. 「フェミニズム理論におけるアイデンティティの限界と可能性ーバトラー／コーネル／スピヴァック」菊地夏野、解放社会学会、関西学院大学、2010年9月5日

久保田健市

著書・論文

1. 「価値観・社会的態度」久保田健市 堀 洋道（監修） 吉田富二雄・宮本聡介（編） 心理尺度集V pp. 304-333 2011年3月14日

小林かおり

著書・論文

1. 小林かおり編著、『日本のシェイクスピア上演研究の現在』, 202頁, 2010年4月
2. Kobayashi Kaori & Suematsu Michiko, “Asian Shakespeare Intercultural Archive (A|S|I|A) : A Collaborative Digital Project,” *Shakespeare Review* Vol.46, No.1 (Spring 2010) : 23-34

学会報告

3. Seminar “Shakespeare and Next-Generation Open Web Technology”, Katherine Rowe, Bruce Smith, Daniel Gallimore, Suematsu Michiko, Kobayashi Kaori, 第49回シェイクスピア学会, 福岡女学院大学, 2010年10月

阪井 芳貴

著書・論文

1. 書評「近代沖縄の知識人」(屋嘉比収著)、阪井芳貴、沖縄タイムス、2010年4月3日
2. 「沖縄スタディツアー」報告—平和と環境問題の学びの実践、阪井芳貴、「人間文化研究所年報」第5号 29～34頁 2010年3月31日
3. 書評「写真で綴る名古屋の教育」(名古屋市教育委員会編) 阪井芳貴 「人間文化研究所年報」第6号 91～92頁

学会報告

1. 「市立大学と市博物館との連携によるまちづくり」 阪井芳貴 名工大・名市大合同テクノフェア2010 吹上ホール 2010年11月17日
2. シンポジウム「博物館と市立大学と地域連携で魅力あるまちづくりを目指して」司会とコーディネーター 阪井芳貴 名古屋市立大学人間文化研究所開設6周年記念シンポジウム 名古屋市立大学 2010年11月27日

佐野 直子

著書・論文

1. 「2つの「地域」の間で—フランスにおける「地域」概念と「地域言語文化」」佐野直子、小森宏美（編）『リージョナリズムの歴史制度論比較』 CIAS Discussion Papers No.17、pp. 31-

43、2010年9月

2. 『グローバル化における「地域」概念の変容』定松文、佐野直子、中力えり、平成19-21年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書（共著）
3. 『言語戦争と言語政策』ルイ＝ジャン・カルヴェ（砂野幸稔、今井勉、西山教行、佐野直子、中力えり共訳）三元社、2010年5月
4. 「地域言語」佐野直子、三浦信孝・西山教行（編）、『現代フランス社会を知るための62章』、明石書店、pp.132-136、2010年10月
5. 「少数言語の言語政策—オクシタン語、カルカッソヌのデモ行進から」佐野直子、坂本千代（編）、『ヨーロッパにおける多民族共存とEU その理念、現実、表象』神戸大学大学院国際文化科学研究科異文化研究交流センター（IREC）2010年度研究報告書、pp.42-53、2011年3月

学会報告

6. 「ヨーロッパにおける多民族共存とEU」主催、第2回研究セミナー講演「少数言語の言語政策—オクシタン語、カルカッソヌのデモ行進から」神戸大学学術交流ルーム 2010年10月29日
7. 「ヨーロッパにおける言語の『領域性』—オクシタン語／バスク後境界地域のパイヨンヌの事例から」多言語社会研究会第6回大会 京都大学稲森財団記念館 2010年12月6日

菅原 真

著書・論文

1. 「フランス2007年オルトフー法と憲法院判決（Décision n°2007-557 DC）—フランスの新しい移民規制法（Loi n°2007-1631 du 20 novembre 2007 relative à la maîtrise de l'immigration, à l'intégration et à l'asile）に関する若干の考察」、菅原真、『多文化共生年報』第7号、21-41頁、2010年3月
2. 「フランスにおける外国人の公務就任権（二）—近代国民国家における『国籍』・『市民権』観念研究序説—」、菅原真、『法学』第74巻第1号、41-87頁、2010年4月
3. 「欧州統合とフランス憲法」、菅原真、『比較法研究』第71号、25-37頁、2010年9月
4. 「フランスにおける外国人の公務就任権（三）—近代国民国家における『国籍』・『市民権』観念研究序説—」、菅原真、『法学』第74巻第4号、40-84頁、2010年10月
5. 「『教育の自主性』をめぐる教育裁判の展開と課題—教育裁判における『教育の本質』と『教育の特質』—」、菅原真、『日本教育法学会年報：教育法学40年と政権交代』第40号、94-102頁、2011年3月
6. 「資料教育法この1年：教育判例」、菅原真、『日本教育法学会年報：教育法学40年と政権交

代』第40号、194-197頁、2011年3月

学会報告

7. 『『教育の自主性』をめぐる教育裁判の展開と課題—教育裁判における『教育の本質』と『教育の特質』』、菅原真、日本教育法学会、明治大学、2010年5月30日
8. 「<グローバル化>におけるフランスの移民政策とその立憲主義的統制」、菅原真、フランス公法研究会、慶應義塾大学、2010年12月12日

鋤柄 増根

著書・論文

1. 気質の発達と遊び・なだめ方 中川敦子・鋤柄増根 小児保健研究 69 657-665 2010年9月
2. 乳児の注意機能と気質の発達について 中川敦子・鋤柄増根・水野里恵 神経心理学 26 210-218 2010年9月
3. Two Temperamental Characteristics, Approach and Inhibition/Fear, and Saccadic Responses in Infancy. Nakagawa, A. & Sukigara, M. International Journal of Psychology and Psychological Therapy 10 349-362 2010年10月
4. 日本の子どもも行動的抑制の発達過程：12～24ヶ月例の縦断的実験観察データの分析を交えた理論的考察 水野里恵・中川敦子・鋤柄増根 中京大学心理学研究科・心理学紀要 10 1-8 2010年12月

学会報告

5. 幼児期の頭部—眼球運動に関する縦断的検討 中川敦子・鋤柄増根 第34回日本神経心理学会総会（於京都大学）2010年9月
6. MMPIにおける臨床群の識別へのperson-fitの応用可能性 鋤柄増根 日本パーソナリティ心理学会第19回大会（於慶應義塾大学）2010年10月

成 玖美

著書・論文

1. (研究ノート)「フレイレ教育論と生涯学習研究—教育と政治性のあいだにある争点」、成玖美、『人間文化研究』、14号、pp. 213-225、2011年2月

学会報告

2. 「タスキーギ学院エクステンション事業の組織化と困難」、成玖美、日本社会教育学会、神戸大学、2010年9月

滝村 雅人

著書・論文

1. 親子遊びにおける発達障害を持つ子どもの動作と対人行動、野中壽子・滝村雅人、人間文化研究、93～98頁、2011. 2

田中 敬子

著書・論文

1. 「<危険な女>と放浪する主人公——フォークナーの『八月の光』と中上健次の「不死」——」田中敬子 『人間文化研究』13号、85-96、2010年6月
2. 「フォークナーの『寓話』と越境」田中敬子、土屋勝彦編『反響する文学』風媒社 90-120、2011年3月
3. 書評『『賢治オノマトペの謎を解く』田守育啓著』田中敬子 『英語教育』59巻11号、96頁、大修館 2011年1月
4. 書評「小林かおり編『日本のシェイクスピア上演研究の現在』」田中敬子 『人間文化研究所年報』6号、84-85、2011年3月31日

谷口 幸代

著書・論文

1. 三上於菟吉「原稿贋札説」の虚実、谷口幸代、江戸文学、42号、112-122頁、2010年5月
2. The personal pronoun anata in the literature of Yoko Tawada, Sachiyo Taniguchi. Christine Ivanovic (Hg.), Yoko Tawada: Petik der Transformation, 263-276, 2010.
3. 多和田葉子『裸足の拝観者』をめぐる一先端的な教材を読み解く観点一、谷口幸代、日本文学、59巻9号、56-59頁、2010年9月
4. 楊逸の文学におけるハイブリッド性、谷口幸代、世界の日本研究、2010、49-61頁、2011年3月
5. 多和田葉子の鳥類学、谷口幸代、土屋勝彦編、反響する文学、風媒社、154-177頁、2011年3月

土屋 勝彦

著書・論文

1. Bemerkungen zum Thema “Identitaet, Migration, Transnationalitaet” - Interview mit den beiden Autoren, Vladimir Vertlib und Zehra Cirak, Masahiko Tsuchiya, 名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』13号 145-165 2010年6月

2. Identitaet, Migration, Fremdheit, Zweisprachigkeit - Gesprach mit Marica Bodrozic und Terezia Mora, Masahiko Tsuchiya, 名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』14号 243-254. 2011年2月
3. 編著『反響する文学』（風媒社）土屋勝彦（執筆者全8名）全264頁 2011年3月
4. シンポジウム報告「越境文学の現在—中国語文学と日本語文学を中心に」土屋勝彦 『人間文化研究所年報』6号 96-98 2011年3月
5. 2010年度「ドイツ現代文化研究会」活動報告 土屋勝彦 『人間文化研究所年報』6号 102-104 2011年3月
6. シンポジウム「越境文学の現在—中国語文学と日本語文学を中心に」全記録 土屋勝彦（編著）科研費報告書 全48頁 2011年3月
7. 「ドイツ語圏移民作家における離散、越境、混淆」土屋勝彦 明治大学文学研究科主催シンポジウム「文学と境界のダイナミックス 離散、越境、混淆」報告集 4-12および56-59 2011年3月

学会報告

8. Identitaetssuche im Roman “Umarmung” von Lydia Mischkulnig, Masahiko Tsuchiya オーストリア現代文学ゼミナールにて研究発表 野沢温泉旅館「さかや」会議室 2010年11月13日
9. 日本独文学会東海支部主催『ドイツ文学研究』合評会にて論文講評発表 土屋勝彦 5本の論文について講評を述べ著者たちと討論した。中京大学名古屋キャンパス 0号館（センタービル）2階 ヤマテホール 2010年12月4日
10. 「ドイツ語圏移民作家における離散、越境、混淆」土屋勝彦、明治大学文学研究科主催シンポジウム「文学と境界のダイナミックス 離散、越境、混淆」にて、明治大学駿河台キャンパス リバティタワー119HI教室（19階） 2010年12月22日

寺田 元一

著書・論文

1. « Atomisme et hyléomorphisme : deux sources de l'émergentisme à l'Âge classique ; le cas de Nicolas de Blégny », Motoichi TERADA, La Lettre Clandestine, no. 18, p.219-237, 2010.

中川 敦子

著書・論文

1. 気質の発達と遊び・なだめ方, 中川敦子・鋤柄増根, 小児保健研究, 69, 657-665, 2010年9月
2. 乳児の注意機能と気質の発達について, 中川敦子・鋤柄増根・水野里恵, 神経心理学, 26,

210-218, 2010年9月

3. Two Temperamental Characteristics, Approach and Inhibition/Fear, and Saccadic Responses in Infancy, Nakagawa, A. & Sukigara, M., International Journal of Psychology and Psychological Therapy, 10, 349-362, 2010年10月
4. 日本の子ども行動的抑制の発達過程：12～24ヶ月例の縦断的実験観察データの分析を交えた理論的考察, 水野里恵・中川敦子・鋤柄増根, 中京大学心理学研究科・心理学紀要, 10, 1-8, 2010年12月

学会報告

5. 幼児期の頭部一眼球運動に関する縦断的検討, 中川敦子・鋤柄増根, 第34回日本神経心理学会総会 (於京都大学), 2010年9月
6. 注意解放 (disengagement) 機能の初期発達の検討, 中川敦子, 第34回日本高次脳機能障害学会 (於埼玉), 2010年11月

成田 徹男

著書・論文

1. 【書評】山田陽子2010『中国人就学生と中国帰国子女』風媒社・成田徹男・『人間文化研究所年報』(名古屋市立大学人間文化研究所)・6号・88～89ページ・2011年3月31日

野中 壽子

著書・論文

1. 親子遊びにおける発達障害を持つ子どもの動作と対人行動. 野中壽子、滝村雅人、人間文化研究、第14号、93-98、2011年2月
2. 愛知県における幼児の体格・運動能力に関する年代変化 (1969年～2009年調査). 穠丸武臣、藤井勝紀、野中壽子、花井忠征、村瀬智彦、石垣享、春日晃章、子どもの発育発達研究会報告書I、1-54、2011年3月
3. 愛知県における幼児の生活リズム・生活行動・遊び環境の実態. 穠丸武臣、藤井勝紀、野中壽子、花井忠征、村瀬智彦、石垣享、春日晃章、子どもの発育発達研究会報告書II、54-83、2011年3月

学会報告

4. 親子遊びにおける発達障害を持つ子どもの動作と対人行動. 野中壽子、穠丸武臣、日本保育学会第63回大会、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、2010年5月23日.
5. 幼児の体格と運動能力の40年間の年代変化 —5歳児について—. 穠丸武臣、野中壽子、渡邊明宏、斉藤典子、日本保育学会第63回大会、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、2010

年5月23日.

6. A frequency response model of skeletal muscle and biochemical properties reflected by the mode elements. Itoh Y, Takesada M, Akataki K, Watakabe M, Nonaka H, Mita K The XVIII Congress of the International Society of Electrophysiology and Kinesiology, Ababorg Congress & Culture Center, Denmark, 18 June, 2010.

野村 直樹

著書・論文

1. 『ナラティブ・時間・コミュニケーション』、野村直樹、2010年9月、遠見書房
2. 「社会構成主義」、「ペイトソン」2011年、現代精神医学事典弘文堂
3. 「フィールドノートから考える医療記録」、野村直樹、N：ナラティブとケア、第2号、pp73-83、2011年1月
4. 「日本のシングルマザーの子育てにおける語りと社会的現実」、共著、日本看護医療学会雑誌第12巻、第2号、pp1-13、2010年12月（英文）
5. 『書評』ポール・オースター著（柴田元幸訳）『幽霊たち』（1986）／レイモンド・カーヴァー著（村上春樹訳）『大聖堂』（1971） N：ナラティブとケア、第1号、pp91-93、2010年1月

学会報告、ワークショップ

6. 「Freeze Frames」 単独 2010年4月 ケ・ブランリー博物館（パリ） 映像人類学会
7. 第9・10・11回ペイトソンセミナー 単独 2010年6月 東京首都大学
8. 第12回ペイトソンセミナー 単独 2010年7月 名古屋大学医学研究科
9. 第13回ペイトソンセミナー 単独 2010年9月 高橋規子心理技術研究所
10. 第14回ペイトソンセミナー 単独 2010年10月 大阪市西区 関西ペイトソン研究会
11. 「コミュニケーションって何だか知ってる？」 単独 2010年12月 名古屋市教育センター
12. 「ナラティブとはなにか」 単独 2010年12月 （社）日本看護協会 神戸研修センター
13. 「ともにつくるコミュニケーションのすがた」 単独 2011年2月 名古屋地方裁判所
14. 「ナラティブって？介護実践における応用」 単独 2011年3月 大阪 北野病院

浜本 篤史

著書・論文

1. 「ロールプレイング・シミュレーションゲーム『開発が町にやってきた』の実践報告—社会学教育としての試み」、浜本篤史、『開発教育』第57号：166-182頁、開発教育協会 2010年8月
2. 「中国」、浜本篤史・相川泰、環境総合年表編集委員会『環境総合年表—日本と世界—』すい

れん舎：426-432頁、2010年11月.

樋澤 吉彦

著書・論文

1. 「第5章 相談援助の援助関係」川廷宗之・藏野ともみ編『相談援助の理論と方法Ⅰ』久美出版、2011年3月。(執筆箇所：215-249頁)
2. 「心神喪失者等医療観察法とソーシャルワークとの親和性について」、『生存学』、3号、155-173 (立命館大学生存学研究センター編、生活書院)、2011年3月.

別所 良美

著書・論文

1. 「ケアの倫理とジェンダー」、別所良美、東海ジェンダー研究所記念論集編集委員会編、『越境するジェンダー研究』、明石書店、p.90-135、2010年6月
2. 「人間の尊厳とベーシック・インカム」、別所良美、平成19-22年度科研費研究報告書「ドイツ応用倫理学の総合的研究」、p.115-128、2011年3月

学会報告

3. 「〈生きた思想〉と美的心情主義—二・二六事件をめぐる北一輝と三島由紀夫」、別所良美、中部哲学会大会シンポジウム、名古屋文理大学稲沢キャンパス、2010年10月2日

松本 佐保

著書・論文

1. Saho Matsumoto, “The Cultural diplomacy of Sir James Rennell Rodd”, Erik Goldstein, in John Fisher and Antony Best(eds), *On the Fringes of Diplomacy: Influences on British Foreign Policy, 1800-1945*(Aldershot: Ashgate, 2011). (共著)
2. Saho Matsumoto, *The Vatican and the Cold War: Defending European civilization, 1848-1948*, British International History Group, University of Oxford, 10 September 2011

学会報告

3. 松本佐保「アジア主義と人種問題」広域アジア主義研究、北海道大学法学部、2010年10月2日

宮田 學

著書・論文

1. ライティングを変えるフィードバックと評価：治療的指導の実際、宮田學、英語教育、第59

矢野 均

著書・論文

1. 確率変数係数を含む階層型多目的線形計画問題に対する対話型意思決定、矢野均、日本経営システム学会誌、27/3、pp.25-33、2011
2. Hierarchical Multiobjective Linear Programming Problems with Fuzzy Domination Structures, Hitoshi Yano, Eds.S.-I.Ao, A.H.-S.Chan, H.Katagiri and L.Xu, IAENG Transaction on Engineering Technologies, American Institute of Physics, 179-191, 2010
3. Interactive Decision Making for Hierarchical Multiobjective Linear Programming Problems with Random Variable Coefficients, Hitoshi Yano, Proceedings of Joint 5th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 11th International Symposium on Advanced Intelligent Systems, 1032-1037, 2010
4. Interactive Fuzzy Decision Making for Hierarchical Multiobjective Linear Programming Problems Using Reference Membership Intervals, Hitoshi Yano, IAENG International Journal of Applied Mathematics, 40/3, 178-184, 2010
5. Fuzzy Approaches for Multiobjective Fuzzy Random Linear Programming Problems Through a Probability Maximization Model, Hitoshi Yano and Kota Matsui, Proceedings of International Conference of Engineers and Computer Scientist 2011, Vol.3, 1349-1354, 2011
6. 階層的多目的線形計画問題に対する対話型ファジィ意思決定、矢野均、日本知能情報ファジィ学会、22/3、396-403、2010
7. わかりやすい数理計画法、森北出版、坂和正敏・矢野均・西崎一郎、1-153、2010

学会報告

8. 確率変数係数を含む階層型多目的線形計画問題に対する対話型意思決定、矢野均、第26回ファジィシステムシンポジウム講演論文集、266-271、広島大学（東広島市）、2010
9. 確率変数係数を含む階層型多目的線形計画問題に対する対話型意思決定、矢野均、日本経営システム学会第44回全国研究発表大会講演論文集、200-203、東海大学（高輪キャンパス）、2010

山田 明

著書・論文

1. 「空港はなぜ乱造されたのかー行財政システムの今日的検証」、山田明、『経済』No176、133-142ページ、2010年5月

2. 「公共事業改革と空港」(1)、山田明、『人間文化研究』No13、1-11ページ、2010年6月
3. 「東海社会の構造変化と『地域力』」、山田明、『東海社会学会年報』第2号、21-29ページ、2010年6月
4. 「書評：『公害・環境問題の視点から見た生物多様性』」、山田明、『環境と創造』No29、83-85ページ、2010年12月
5. 「公共事業改革の現実と課題」、山田明、『行財政研究』No78、2-10ページ、2011年1月
6. 「書評：『公共事業再生一分権時代の国土保全・建設産業政策』」、山田明、『経済』No184、98-99ページ、2011年1月
7. 「名古屋市政研究の意義と課題」、山田明、『人間文化研究』No14、55-62ページ、2011年2月

山田 敦

著書・論文

1. 戦後台湾社会経済におけるエリートの連続と断絶—農会を例として(1953~1960s)—、薛化元・黄仁姿(著)、やまだあつし(訳)、現代台湾研究、第39号、8-27頁、2011年3月
2. 台湾史研究の意義、やまだあつし、現代中国研究、第28号、141-142頁、2011年3月

学会報告

3. 1950年代における日本の台湾輸出、やまだあつし、第14回現代台湾研究学術討論会(台湾史研究会・台湾歴史学会)、関西大学、2010年9月

山田 美香

著書・論文

1. 「日本植民地下台湾・朝鮮における少年保護」、山田美香、名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』第13号、pp. 27-38、2010年6月
2. 「香港の学校における不良少年の戦後史」、山田美香、国際アジア文化学会『アジア文化研究』第17号、pp. 49-59、2010年6月
3. 「日本植民地・占領下の台湾、朝鮮半島、中国東北部における少年犯罪の比較研究」、山田美香、日本司法福祉学会『司法福祉学研究』第10号、pp. 10-24、2010年7月
4. 研究ノート「台湾・香港の中学校における問題行動を起こす生徒の支援」、山田美香・張汝秀、名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』第14号、2010年12月、査読なし、共著、pp. 197-211。

学会報告

5. 「台湾・香港の学校における問題を抱えた生徒(不良少年)の支援」、張汝秀・山田美香、アジア教育学会第5回大会(2010年10月31日、於：九州大学箱崎キャンパス)、加筆修正して

上記の研究ノートに。

山本 明代

著書・論文

1. 「東欧移民のコスモポリタニズムと『市民権』—20世紀初頭オハイオ州クリーヴランドにおける文化多元主義の試み」、山本明代、『アメリカ史研究』、第33号、40-58頁、2010年8月
2. 「アメリカ合衆国スロヴァキア系集団の祝祭」、山本明代、土屋勝彦編『反響する文学』、風媒社、2011年、121-153頁、2011年3月
3. 「18世紀ペーチのなめし革職人とギルド」、山本明代、名古屋市立大学大学院人間文化研究科ペーチ・バルカン研究会『東中欧・バルカン地域における職能集団をめぐるインターカルチュラル圏の形成と変容』、30-31頁、2011年3月

学会報告

4. 「18世紀ペーチのなめし革職人とギルド (A pécs tímárok és céhük a 18. században)」、山本明代、日本・ハンガリー・バルカン研究グループ会議、ペーチ大学 (ハンガリー)、2010年9月2日

吉田 一彦

著書・論文

1. 「『日本書紀』 仏教伝来記事と末法思想 (その五) [完]」吉田一彦、名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』13、査読無、167-190、2010年6月
2. 「仏教の伝来と流通」吉田一彦、末木文美士他編『アジア仏教史11 日本 I 日本仏教の礎』(共著) 佼成出版社、16-83、2010年8月
3. 「国分尼寺と滅罪」吉田一彦、竹村和子・義江明子編『ジェンダー史叢書3 思想と文化』(共著) 明石書店、191-193、2010年7月
4. 「古代国家の仏教儀礼と地域社会」吉田一彦、芸能史研究会『芸能史研究』192、査読有、1-20、2011年1月
5. 「韓国の寺院・神仏習合・博物館—2009年度、2010年度の調査から—」吉田一彦、名古屋市立大学人間文化研究科『人間文化研究所年報』6、査読無、40-50、2011年3月
6. 「書評・日沖敦子著『毛髪で縫った曼荼羅』(新典社)」吉田一彦、名古屋市立大学人間文化研究科『人間文化研究所年報』6、86-87、2011年3月

学会報告

7. 「古代国家の仏教儀礼と地域社会」(招待講演) 吉田一彦、芸能史研究会大会、同志社女子大学、2010年6月6日

8. 「聖徳太子伝の変貌」 吉田一彦、聖徳太子信仰研究会（シンポジウム「聖徳太子信仰の成立と展開」）、中部大学、2010年10月2日

吉村 公夫

著書・論文

1. 「雇用政策と社会福祉」、名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』第14号、6ページ、2010年12月